

## 中国国家図書館「第十三次5か年計画」期間発展ビジョンの概要

中国国家図書館 研究院副院長  
申 曉娟

皆様、こんにちは。

再び東京の国立国会図書館にて、新旧の友人の皆様と交流し、共通の関心事についてお話ができますことを大変光栄に存じます。アジェンダにしたがい、私からは中国国家図書館の「第十三次5か年計画」期間、すなわち2016～2020年の発展ビジョンについて簡単にご紹介します。

### 一、ビジョン策定の背景と主要プロセス

当館は従来から中長期発展ビジョンの策定を重要視してきました。1956年に「北京図書館12か年（1956～1967）事業ビジョン要綱」を策定、さらに「1986～1996年10か年図書館構築目標」の策定に続き、1995年以降は「国家国民経済と社会の発展に係る5か年計画」の周期に合わせて5年ごとに発展ビジョンを策定・公開しています。今年、発表・実施の運びとなった「国家図書館『第十三次5か年計画』期間ビジョン要綱」（以下、「ビジョン」とします）は、当館にとっては5回目の5か年ビジョンです。

新しい5か年ビジョンは、広範かつ深く掘り下げた調査研究に基づいて策定しました。2014年、当館は複数部門にまたがる研究チームを立ち上げ、国家図書館研究院が中心となってビジョン策定のための事前研究事業を始動しました。「第十三次5か年計画」期間における事業発展環境の見通し、国家文献情報資源総書庫の構築、国家図書館多層化サービス戦略、国家デジタル図書館の構築と発展等の8分野における重点課題、特に、国内外の状況と傾向、中国国家図書館の当該分野における業績と課題、将来の発展目標と実現のための道筋等について調査分析を行い、60数万字にのぼる事前研究報告をまとめました。

この報告に基づき、当館は2015年7月に「ビジョン」の公開草案をまとめ、主管部門、館内職員、他の図書館の代表、専門家・研究者、図書館利用者の代表等、広く各方面に意見を募集し、2017年3月に正式に発表・実施しました。

## 二、「第十三次 5 か年計画」期間の事業環境に対する基本的判断

「第十二次 5 か年計画」期間（2011～2015 年）において、当館の所蔵文献は年平均で 130 万 9600 冊、デジタルリソースは年平均で 149.92TB 増加しました。文津検索システムが正式に稼働し、メタデータの集中保存件数は 3 億件近くに達しています。1 年間の平均来館利用者数はのべ 406 万 1,200 人、文献利用数は 2,521 万 4,220 件、展示会・講座等のイベントの開催回数は 970 回、国家デジタル図書館ウェブサイトの実名登録ユーザー数は 655 万人に達しています。また、本館南区の補修改築工事が完了し、1 万 2,000 平方メートルの広さを持つ国家典籍博物館が完成・オープンしたほか、約 8 万平方メートルにおよぶ国家文献戦略的保存庫の建設プロジェクトが承認され、こちらもまもなく着工します。さらに、中華古典籍保護計画、民国期文献保護計画、デジタル図書館推進プロジェクト等の重点文化プロジェクトの推進に向けた取組がより具体化され、全国図書館事業の発展における国家図書館の調整役・牽引役としての機能も強化されました。「第十二次 5 か年計画」期間の計画で掲げた目標任務はすべて達成されています。

この結果を受け、「第十三次 5 か年計画」期間に当館が直面しうる事業環境について私たちはおよそ次のように判断しています。

### （一）内部の事業環境

判断一：国家図書館は、引き続き公共サービスを提供する重大な役割を担っていきます。

近年、中国の公共図書館事業の成果が注目されていますが、現場の図書館サービスネットワークの整備はまだ不十分です。加えて、経済・社会・科学技術の急速な発展に伴って国民の自己学習や自己研鑽のニーズは高まっています。そのため、一般市民から科学研究従事者まで様々な人々の情報ニーズの多くに対して、国家図書館が引き続き応えていく必要があります。また、まもなく中国人民代表大会から公布される「公共図書館法」は、その公開草案において、当館が国家図書館としての役割だけでなく公共図書館としての役割も担うことを求めています。

判断二：来館利用者数がおおむね安定しているのに対し、非来館型利用者の人数は急速に増加すると思われます。

当館の最近 10 年間の統計データによると、年間平均来館利用者数は、のべ 412 万 9,500 人です。2009 年および 2010 年については、第二期新館の完成・オープンを受け、年間来館利用者数が 500 万人を超えています。それ以外の年はおおむね 380～420 万人の間で安定的に推移しています。一方、非来館型利用者は急劇に増加しています。特に、ウェブサイトのアクセス数は、2012 年から毎年 10

億回を超え、携帯電話ポータルサイトのアクセス数も過去 5 年間で 160%以上増えています。膨大な数のインターネットユーザーやモバイルネットユーザーが存在することから、非来館型利用者数の増加余地は大きく、このような急成長は、「第十三次 5 か年計画」期間中も続くと思われま

判断三：リソースの規模は今後も拡大するため、長期保存が課題となります。

近年、当館では、伝統的媒体による文献、ネットワークリソース、「記憶」系リソース（後述の「生きている文化記憶」等）の収集・収蔵量が急増し、全体の所蔵量は、各区画の設計蔵書容量の合計をすでに超過しています。また、デジタルリソースの長期保存については、その特性から、伝統的媒体の文献とは異なるより複雑な技術と管理が求められます。したがって、「第十三次 5 か年計画」期間においては、図書館館舎に関する現行条例のもとで、各種の文献をどのように長期的かつ安全に保管するかということが、私たちにとって大きな課題であると言えます。

判断四：リソースの構成が変化しているため、表示の統合が課題となります。

情報の伝達手段の種類と形態、情報源が多様化されていくにつれ、国家図書館が所蔵する文献リソースの構成は大きく変化し、種類や構成が複雑化しています。そのため、正確で完全かつ深く掘り下げた形で、リソースの種類や構造上の特性にとらわれずに、リソースの収集、関連付けやコンテンツの発掘を行うという課題は、さらに困難になります。

## 二) 外部環境

判断一：図書館は、経済・社会の発展においてより重要な役割を果たすこととなります。

世界的な科学技術イノベーション大国を目指す中国は、経済発展モデルの転換とアップグレードの段階にあり、科学技術の役割は今後さらに際立ってくるでしょう。また、図書館が知識や情報の提供を保障することも、経済・社会を発展させる上でますます重要になります。さらに、社会の発展に適応するために、人々の自己学習や自己研鑽の意欲が高まっており、図書館は社会教育を提供する一種の学校として、人々の生涯学習において重要な役割を果たすこととなります。

判断二：外部環境は引き続き良い方向に向かうでしょう。

近年、中国政府は、文化の発展を促進するための政策文書を相次いで公布し、現代的な公共文化サービスシステムの構築、中華の優れた伝統文化の伝承や発揚等の分野における重要文化プロジェクトを打ち出しています。国家レベルの公共文化サービス施設として、中国国家図書館の発展は、引き続き政府から重要視され、支援を受けることとなります。

判断三：ユーザーのニーズの変化に対応するため、図書館の機能を拡充する必要があります。

現代の情報技術の発達が目覚ましく、情報の伝達や入手の方法が急激に変化したことにより、人々の読書・学習・研究活動にも劇的な変化が生じています。この変化に対応するためには、図書館の機能も変えていく必要があります。例えば、文化空間としての図書館の価値を発掘することや、都市公共サービスのプラットフォームと連携することが考えられます。

判断四：連携・協力が時代の趨勢となっています。

現在、社会の分業構造は細分化が進んでおり、図書館と生産・出版・伝達・サービス等の情報の流れの各部を担う機関との協力関係はますます緊密になっています。また、図書館は、博物館、公文書館等、他の公共文化機関との間でリソースの共有や業務協力を進めています。

### 三、「第十三次 5 年計画」期間中の主な発展目標と重点課題

「ビジョン」は、当館の今後 5 年間の新たな機能の位置づけを示す「1 庫・1 館・4 センター」構想に基づいて策定しました。「1 データベース」は国家文献情報資源総書庫、「1 館」は国家典籍博物館、「4 センター」は国家古典籍保護センター、国家書誌センター、全国図書館情報ネットワークセンター、全国図書館発展研究センターをそれぞれ指します。

#### (一) 発展目標

「ビジョン」では、「国内最高かつ世界をリードする図書館」となることを全体目標としています。そのために、中国国家図書館を中華の秀れた伝統文化を伝承・発揚するための重要拠点、国民の読書活動を支援・促進するための中心拠点、国の経済・社会の発展を支える新型シンクタンク、イノベーションや起業を支える知識センター、図書館界の発展とサービス刷新のためのモデル拠点、各種情報サービス機関をつなぐオープンプラットフォームにすることを目指しています。

また、「ビジョン」では、8 つの重点指標について、2020 年までの数値目標を設定しています。その目標とは、所蔵文献資料の総数、所蔵デジタルリソースの総量、年間来館利用者数、ウェブサイトの年間アクセス数、携帯電話ポータルサイトの年間ページビュー数、レファレンスの年間回答件数、講座・展示イベントの年間開催回数、図書館員向け研修の年間実施回数です。

#### (二) 重点課題

上記の目標に関連して、「ビジョン」では、「第十三次 5 年計画」期間中に 12

の領域における合計 55 件の重点課題と 17 件の重点事業を定めています。12 の領域のうち、8 つは業務構築に関するもの、2 つは科学研究および人材チームの構築に関するもの、2 つは管理と組織文化の構築に関するものです。

#### 課題一：国家文献情報資源総書庫の構築

所蔵資料の内容をさらに充実させ、構成をより合理的なものにし、国の経済・社会の革新的発展に資する文献情報の提供機能を強化するために、「ビジョン」では 4 つのポイントを挙げています。第一に「外部の情報環境の変化に応じて所蔵資料の構築方針を再調整すること」、第二に「様々な措置を講じて法定納本出版物の収蔵率を高めるとともに、一般には流通しない非公式出版物の収集を強化すること」、第三に「重点分野と重点地域、特に中国学や国境地区・沿海地区に関する文献および国家の重要戦略に関する国と地方の文献の提供を保障すること」、第四に「紙資料やマイクロ資料等の実体資料、デジタルリソース、ネットワークリソース、「生きている記憶資源」（訳者注：現在も継承されている伝統的な技術や風習等）を十分に融合させた現代的な所蔵システムを構築すること」です。

#### 課題二：国家文献情報資源総目録の構築

各種文献情報の統合検索と表示の整合の機能を強化し、ナレッジの組織化と探索技術に関するフォローアップ型研究や新機軸の導入・応用を実現するため、「ビジョン」では、取組の方向性として次の 3 点をあげています。第一に「ネットワークリソース、「生きている記憶資源」等の新しい伝達手段による資料について、書誌作成を強化し、各種所蔵資料のメタデータと国内外の中国語文献目録データの集中的保存と統一的管理を実現すること」、第二に「知識の関連付けに基づくリソースの統合を推進し、質の高い統合検索と探索サービスを提供すること」、第三に「中国国家書誌目録と全国図書館共同所蔵目録を構築すること」です。

#### 課題三：国の立法・意思決定を支える新型シンクタンクの構築

国の立法・意思決定を支えるための文献情報の提供能力、サービス能力、研究能力を向上させるため、「ビジョン」では、3 つの領域において目的実現のための道筋を提示しています。第一に「海外の中国問題研究センター、中国辺境文献研究センターと連携し、国防・外交等の重要事項における国の意思決定を支援するために文献情報を提供する能力を強化すること」、第二に「各部・委員会の分館と連携し、国の政治・外交の大局の変化に迅速に対応するための体制を構築し、重点領域および重要課題について鋭い論点やタイムリーなサービスを提供できるようになること」、第三に「国の意思決定に密接に係る重要課題や重点領域について、ポイントを絞った予測準備型の政策研究を展開すること、特に、経済・社会の発展に関して注目される問題について国家戦略に資する文献の整理・研究を実施すること」です。

#### 課題四：科学技術イノベーション支援業務

「ビジョン」では、国家図書館による科学研究と技術的イノベーションの支援サービスの強化に着目し、4つの領域における課題を示しています。第一に「全国をカバーする文献提供システムの構築を段階的に強化し、科学技術・イノベーションのために文献による支援と情報サービスを提供すること」、第二に「国家図書館科学評価センターと連携し、科学研究機関や企業のユーザーに向けて、学術的影響力の評価、科学技術プロジェクトの新規性調査、技術分析報告、業界（産業）発展報告、市場モニタリング分析報告等のサービスや商品を提供すること」、第三に「国家の重要戦略分野、重点建設プロジェクト、重要なイノベーションプロジェクトのニーズに積極的に応え、特化型のサービスを提供すること」、第四に「中小企業や一般市民を対象に、起業やイノベーションのためのツール、スペース、文献、レファレンスサービスを提供すること」です。

#### 課題五：国家レベルの公共文化サービス提供のための拠点の構築

この課題の狙いは、当館の「全方位、全媒体、多種多様なサービス提供力」を高めることにあります。「全方位」とは、国家図書館のサービスは、一般大衆、高齢者、未成年者、障がい者等、あらゆる人々を対象としたものでなければならず、人々の生涯学習・生涯教育をサポートするサービスネットワークを構築すべきであるということ、「全媒体」とは、ネットワークを通じてサービスの範囲を拡大し、各種の媒体と端末に対応したサービスを提供すること、「多種多様」とは、人々の自己学習・自己啓発を促し、サポートすることに重点を置き、文献の閲覧、レファレンス、展示、講座、研修、読書推進活動、芸術的素養を培う教育等、様々なサービスを提供することを意味しています。

#### 課題六：クラウドコンピューティングとビッグデータに基づく業務支援プラットフォームの構築

現代の情報技術を十分に活用して業務や利用者サービスの水準を高めるため、「ビジョン」では、4つの主要事業を提起しています。第一に「国家公共文化情報サービスのインフラクラウド、中華文化資源総合データベース、国家公共文化情報総合サービスネットワークを構築すること」、第二に「クラウドストレージ、クラウドサービス、ビッグデータに基づいた技術プラットフォームの構築を強化すること」、第三に「ビッグデータによるデータ分析とサービスの能力を強化し、所蔵資料の構築方針と利用者サービスの方針の調整に必要なデータを提供すること」、第四に「業務管理の自動化と図書館業務のIT化の水準を高めること」です。

#### 課題七：文献の保存・保護と整理・利用の強化

「ビジョン」では、当館が所蔵する古典籍資料を保存・保護し、それらの古典籍資料が文化を伝達して社会の教養を高め、科学研究を進めて現実に直面する問題を解決していく上で役割を果たせるようにすることに着目し、4つの領域における重点事業を掲げています。第一に「『国家図書館国家文献戦略的保存庫』を設置し、本館と遠隔地の保存管理を融合させた文献保存システムを段階的に構築すること」、第二に「中華古典籍保護計画、民国期文献保護計画等のプロジェクトを引き続き推進し、1949年以前の文献の保存・保護と整理・出版を強化すること」、第三に「国家典籍博物館の事業展開に注力し、所蔵資料の強みを活かし、貴重書の展示企画や限定グッズの開発を行うこと」、第四に「重要な現実的意義や社会的影響を有する各テーマの文献を一定量整理出版すること」です。

#### 課題八：全国的な図書館サービスシステムの構築の推進

「ビジョン」では、国家図書館が図書館界で牽引役となり、各レベル・館種の図書館や他の公共文化機関との連携・協力を強化し、現代的な公共文化サービスシステムの構築を共同で推進していることに着目し、4つの事業を提起しています。第一に「業務プラットフォームの相互連携、リソースの共同構築・共同利用、業務交流とシンポジウムの開催、職員研修の実施等を通じて、図書館界の交流と協力を強化し、全ての公共図書館の発展を促進すること」、第二に「図書館事業の発展に係る重点領域と重要課題について共同研究を展開すること」、第三に「標準規格を策定し、全国の図書館の所蔵情報の統一表示と統合検索および共同サービスの実現を推進すること」、第四に「関係業界との間でリソースの相互補完を可能とし、提携によって互恵的な協力体制を構築する方法を検討し、情報の生産・組織化・加工・伝達・利用の各段階におけるコミュニケーションと協力を促進すること」です。

#### 課題九：対外開放協力プラットフォームの構築

国家図書館の対外文化交流事業をさらに推進するため、「ビジョン」では、国際交流イベントを企画して実務的な協力プロジェクトの実施を推進すること、シルクロード図書館連盟を構築すること、関係する国際組織や業界組織の活動に積極的に参加して海外の図書館との提携分野や協力範囲を拡大すること、海外の中国文化センター図書館の建設のためにリソースとサービスの面でサポートすることを提起しています。

中国国家図書館は、「『第十三次5か年計画』期間ビジョン」を着実に遂行することで、事業の発展を促し、飛躍的な進歩を遂げたいと考えています。また、日本の国立国会図書館と、中長期ビジョンの策定・実施の面で交流や協力を強化し、成功体験を積極的に共有し、両国の図書館事業の発展を牽引していきたいと切に願っています。ご清聴ありがとうございました。